



Q1 従来の授業を変えなければいけないのですか。

A PISA型読解力という新しいようですが、読んだ内容に関連した他の文章を読む、自分の考えを明確にしながらかくなど、PISA型読解力で求められることの大半は、従来の授業で扱われてきました。その中で、「より強調したほうがいいこと」として、「読んだ以上は自分の考えを述べる」=「熟考・評価する」ことが言われています。その際、「内容」についてだけでなく、表現や述べ方、つまり「書き方」についての工夫を見だし、そう思う根拠を挙げて説明することが大切です。また、「自分の考えをまとめて書く」ことも求められています。三文程度でいいので、授業の要所で書く時間を設けたいものです。

Q2 よく耳にするのですが、非連続テキストってなんですか。

A 非連続テキストとは、図や表・グラフなど、ひとつながりの文章ではないテキストの総称で、広告や時刻表などもこれに含まれます。図や表・グラフは他教科の学習でも出てきますが、国語科で扱うときは、「この図が文章中にあることで、どんな効果があるか」「言葉があることによって、図がどれだけ分かりやすくなるか」というように、常に言葉との関係を考えることが大切です。

Q3 どの教材でも「情報の取り出し→解釈→熟考・評価」のすべてを扱うのですか。

A そうではありません。従来の授業でも「情報の取り出し」「解釈」は、押さえられていると思います。これまでの指導に加えて意識したいのは「熟考・評価」ですが、すべての教材で無理に扱おうとせず、筆者の意見が明確な文章、書かれ方に特徴がある文章など、際立った特徴のある教材で取り組んでいただければだいじょうぶです。また、学年によっても重点のかけ方が違ってくると思います。低学年のうちは、読解の基礎である「情報の取り出し」を丁寧に扱い、高学年ではより意識して「熟考・評価」を問うていくことが必要になるでしょう。

Q4 文学教材でもPISA型の課題を取り入れるのですか。

A Q1にもあるように、PISA型読解力で求められることの大半は、従来の文学の授業でもなされてきました。ただ、「この表現がこういう効果を生み出している」「こういう構造になっているから、こんなにおもしろいんだね」など、表現の工夫や効果についてはこれまで以上に目を向ける必要があるでしょう。そうすることで、作品を読み味わう観点も豊かになり、より楽しい文学の授業になると思います。

知って安心、「PISA型読解力」

PISA型読解力 (reading literacy)

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力。



PISA型読解力 三つのプロセス

情報の取り出し	テキスト(連続・非連続)に書かれている情報を正確に取り出す。
解釈	書かれた情報がどんな意味をもつか、理解したり推論したりする。
熟考・評価	書かれている内容や述べ方について、自分の知識や考え・経験と結び付けて述べる。

**文部科学省
読解力向上プログラム「三つの重点目標」**

- ① テキストを理解・評価しながら読む力を高める取組の充実
- ② テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める取組の充実
- ③ 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実



※は、三つのプロセスに対応した課題です。



説明文

- ▼筆者は、第一段落で話題を提示し、「生き物の特徴をさぐってみましょう。」と呼びかけている。それによって、読者は何に気をつけて読んでいけばいいのかが分かる。
- ・「生き物の特徴」は、その後の説明でいくつ挙げられているだろう。それぞれ、どこからどこまでに書かれているだろうか。
- ・「生き物の特徴」をまとめている段落を見つけよう。
- ▼筆者は、本物のイヌとロボットのイヌとを比べながら、ところどころに「人間」の話盛りこんでいる。それはなぜだろうか、考えてみよう。
- ▼この文章全体で、最終段落はどのような役割をしているのだろうか。
- ▼次の内容をそれぞれひとまとまりにして、二つのまとまりから成る文章を書こう。
- ・筆者が、この文章で読者に考えてほしいと願っていることは何かを考え、文章全体を短くまとめる（要約する）。
- ・筆者の考えについて、自分はどうのように考えるかを書く。

6上「生き物はつながりの中に」

文学

- ▼この作品に、どうして「やまなし」という題名がつけられたかを、次のことから考えてみよう。
- ・「五月」と「十二月」を比べて感じたこと、分かったことから。
- ・資料「イーハトーヴの夢」を読んで、作者宮沢賢治の考え方について思ったこと、分かったことから。
- ▼作品を読んで、自分なりに考えたこと、感じたことを書き、発表しよう。友達の発表を聞いて、考えを深めよう。
- ▼この作品で、「坂本君」はどんな役わりを果たしているだろうか。考えてみよう。
- ▼この作品では、クロッカスが三つの場面が出てくる。どの場面のクロッカスが心に残っただろうか。それは、なぜだろうか。
- ▼「カレーライス」では、地の文が「ぼく」の立場で書かれている。そのことは、どのような効果を上げているだろうか。考えてみよう。

6上「カレーライス」

5上「新しい友達」

6下「やまなし」

知って安心、「PISA型読解力」

今日から使える！発問例

発問を少し工夫するだけで、PISA型読解力に対応する課題が設定できます。ここにある例を参考に、ぜひ授業でお使いください。

〈例1〉「主人公の気持ち」について考えさせる問い

情報の取り出し	・〇〇のとき、この人物はどんな気持ちだったでしょう。 （「悲しい」など直接書かれている場合）
解釈	・〇〇のとき、この人物はどんな気持ちだったでしょう。 ・〇〇の気持ちが変わったのはなぜでしょう。 （直接的な表現はなく、行動や情景描写から読み取る場合）
熟考・評価	・主人公がこんな気持ちになったことについて、あなたはどのように思いますか。

〈例2〉「図表」について考えさせる問い

情報の取り出し	・本文の〇〇と対応する図はどれですか。 ・この図は、本文のどの部分と対応しているでしょう。
解釈	・筆者がこの図を用いたのはなぜだと思いますか。
熟考・評価	・筆者はこの文章でどのような書き方の工夫をしていると思いますか。 ・ほかにどんな図があったら、より分かりやすくなると思いますか。

その他の例

情報の取り出し	・問題提起（具体例、筆者の意見など）はどこに書かれていますか。 ・筆者は、三つの事例（理由）を挙げています。それは、何ですか。
解釈	・この人物はどんな人柄でしょう。 ・〇〇と書いたことによって、どのような効果が生まれていますか。
熟考・評価	・この文章（メモ、新聞、手紙など）の書き方の工夫を見つけましょう。 ・筆者の考えに対してあなたはどのように思いますか。理由も挙げながら述べましょう。

21年度版光村の「国語」で、
PISA型読解力に対応した授業は十分できます！